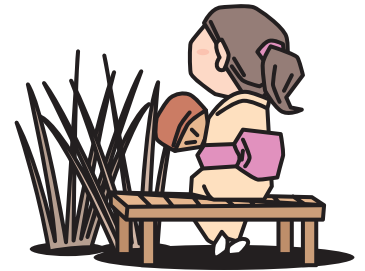


2003年の十五夜は9月11日

十五夜－仲秋の明月は、月のない闇夜から数えて、お月さまが真ん丸になる十五日目の夜。2003年は、旧暦(月曆)の八月十五日、新暦(太陽曆)では9月の11日になります。

この仲秋の明月－お月見はいつから始まったのでしょうか。起源は、やっぱり中国にあるようです。唐の時代、今年の豊作を祝ってお月さまに感謝の礼を捧げる儀式だったのが、いつのまにか宮中での宴会へと姿を変えていったとか・・・日本には平安時代に伝わりました。どの時代にも、お酒の好きな風流人がいたのですね。月を見ながら、詩を詠み、美酒に酔いしれる慣わしが、またたく間に広がったようです。



十五夜だけでは片見月

十五夜は旧暦の8月15日。この対として旧暦9月13日の十三夜というのがあるのをご存じですか？十五夜の月見をしたら、必ず十三夜もお月見しないと縁起が悪いものとされていました。

お月見は元々、豊作を祝って行われていた畑作儀礼から生まれたもの。十五夜にはこの時期の収穫物－芋を飾り、十三夜には枝豆や栗をお供えする習慣がありました。この習慣から、十五夜と十三夜の二夜の月見が慣例だったようです。ちなみに、2003年の十三夜は10月8日です。



月見団子の元は里芋？

お月見と言えば、丸い丸い月見団子。最近は、雲の間にのぞく月を思わせる、あんこで包んだ細長いお団子もありますが、月見団子と言えばやっぱり〇丸〇ですよ。

昔から、関西では収穫物のひとつとして、お月見に里芋を飾る習慣がありました。この習慣が全国に広がり、形も良いことから月見団子の原形となったようです。

もうひとつの飾り物のすすき。これは、節分の柵と同じ思いがこめられていたようです。するどい葉や茎は、ほんやり触ると手を切ることがあります。このことから、夜に忍び寄る悪霊を祓ってくれる力があると信じられていたとか。お月見が終わった後に、捨てずに庭や門扉の周りにさしておいたそうです。また、すすきのようにすくすくと育ちますようにとの願いをこめて、畑の周りにさすこともあったとか・・・

どうか、ゴミ箱なんかには捨てないであげて下さいね。

？ 十三夜は豆明月？

十三夜は枝豆を備える豆明月ともよばれています。十三夜と言えば今年も10月8日。枝豆は、ビールのお供で夏のものなのに・・・なんて思ってしまうですね。

ところが、実際の枝豆の旬は10月始め。熟した栗が店頭並ぶのと同じ頃。8月に店頭並ぶのは、ほとんどが冷凍ものだから。同様に9月に販売される栗もそのほとんどが冷凍もの。今年の栗も混じっているようですが、早生のものはまだまだ甘味が足りないとか・・・旬にあわせた食材は栄養たっぷり、枝豆の旬はこれからです。

